

市町村のスタッフはどうか

職務別十三市社会教育関係職員等級一覽がようやくでき上った。

旧五市で社会教育課がないのは郡山、他の八市では課のあるほうが少くて、磐城と原町にあるのみ。申合せたように課長は昭和二十八年度に実施した三か月に及ぶ社会教育主事講習の受講者が多い。須賀川市の社会教育専任職員なしも困るが、市として一名きりないというのも困りはしないか。

公民館の職員に目を移すと内郷市のゼロを除き、さすがに充実して来た感じを与える。須賀川市の兼任職員は、市の財政の許す範囲内で専任職員に切りかえてほしいものである。その他はそれぞれの

市において御判断いただきたい。

図書館は現在、福島、郡山、若松、白河、須賀川の五市にあるのみで、他の市にはないし、これからも簡単には新設されそうもない。やっぱりここでも須賀川市の社会教育行政は、過去のゆきがかりを清算して、もっと須賀川市の現在の規模と性格にあったものにならなければならぬのではないか。内郷市はようやく専任の教育長を迎えたばかりであるから将来に期待することにして筆をひかえる。

現在原下の全町村にわたって、社会教育関係職員しらすをしてゐるから、そのうち十三市の場合のように、各出張所ごとの町村社会教育関係職員等級一覽を複製し、社会教育関係職員が実際にどればかりおって、どんな待遇を受けているかを

明かにしたい。

公民館という名前だけがあっても、建物や専任職員や設備がととのっていないければ、どうにもならないことである。

唯一、ここで繰返し繰返し申上げておきたいことがある。それは、社会教育の専任職員をおくと、教育長はじめ多くの人々、この専任職員を社会教育の先生と見なし、社会教育活動の一切をこのにかぶせようとする誤りについてである。

市町村の社会教育スタッフ

	13市の場合	平均	96町村の場合	平均
教育長	13人	1人	96人 (うち兼任1)	1人
社会教育課員	33人 (うち課長6)	2.5人	28人	0.3人
公民館職員 図書館職員	115人 34人	11.5人	149人	1.8人

上の数字はすべて専任者の数

解説：市の場合であると、社会教育課員が平均して2人半いるのに対して、市町村の場合であると、僅かに3町村半にたった1人ということになる。公民館の職員の場合でもたいへんな違いである。

(社会教育)

職務別13市社会教育関係職員等級一覽

注 1 () 内の数字は等級及び号 2 ○内の数字は人数

職務別	市別	福島市	郡山市	会津若松市	平市	白河市	須賀川市	喜多方市	相馬市	原町市	常磐市	磐城市	内郷市	勿来市
教育長		45,000	42,000	40,500	38,800	22,000	33,900	32,000	26,000	20,000	32,000	32,000	32,000	30,000
課長		25,000 (2.5) ①		26,200 (2.6) ①	22,600 (2.3) ①	26,200 (2.14) ①				14,300 (2.6) ①		19,300 (3.5) ①		
係長		21,400 (3.7) ①	21,400 (2.1) ①	15,300 (3.1) ①							15,300 (2.1) ①			
主事		14,300~ 9,800 (4.10~4.5) ③	11,400~ 9,800 (4.7~4.5) ②		119,300~ 12,300 (4.15~4.8) ⑤	19,300 (3.17) ①		13,300 (3.3) ①	14,300 (2.7) ①					12,300 (4.8) ①
その他				13,000~ 11,400 (5.17~5.15) ③							9,200 (5.11) ①	7,400 (4.3) ①	14,100~ 8,000 (5.18~5.12) ②	6,600 (5.17) ①